

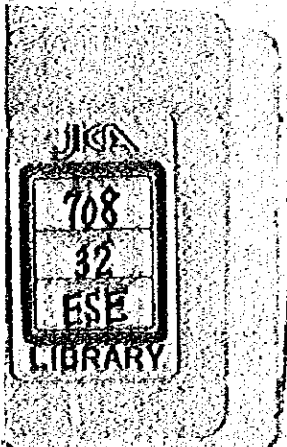
業務資料 470

パラグアイの経済概況

1975年度

昭和53年2月

国際協力事業団
移住部門



国際協力事業団	
受入 月日 84. 4. 10	708
登録No. 03152	32
	ESE

はしがき

本資料は、パラグアイの経済概況を知る内部資料として、下記資料をもとに作成したものである。

RESEÑA ECONOMICA FINANCIERA Y MONETARIA DEL AÑO 1975

BANCO CENTRAL DEL PARAGUAY

BOLETIN ESTADISTICO MENSUAL, Marzo 1976

BANCO CENTRAL DEL PARAGUAY

CUENTAS NACIONALES 1962/1975

BANCO CENTRAL DEL PARAGUAY

国際協力事業団

移住第1業務部長

JICA LIBRARY



1028872181

目 次

1 国内生産	1
2 1975年の各部門	6
(1) 農 業	6
(2) 牧 畜	6
(3) 林 業	6
(4) 工 業	7
3 消費者物価	7
4 貨 銀	8
5 財 政	9
6 金 融	9
7 貿 易	13
(1) 輸 出	13
(2) 輸 入	16
3 国際収支	18
9 為替管理	20
10 外国借款	21

1. 国内総生産

1975年の国内総生産は前年比で5%の増となり、118800百万グアラニー(9432百万US\$)1人当たりして356US\$となった。この成長率5%は、前年の8.3%と比すとかなりの落ち込みではあるが、1975年の世界的景気後退、第1次産業におよぼした天然不順による影響といった背景のもとに、ラテンアメリカ諸国の推定平均成長率が3.3%に、世界の平均成長率が1.5%にとどまったことと比べると高い評価をしても良いであろう。

表-1 国内総生産

	1972年	1973年	1974年	1975年
1972年価格換算(百万グアラニー)	96899	104499	113151	118841
US\$換算(百万US\$)	7680	8284	8980	9432
成長率(%)	5.1	7.8	8.3	5.0
人口(千人)	2354	2416	2572	2647
1人当たり国民総生産(US\$)	327	343	349	356

部門別構成比率をみると、農業18.2%、牧畜12.2%、林業1.2%で第1次産業部門だけで34.7%を占めている。一方工業部門は15.1%にしか過ぎず、パラグアイ国の経済構造が、農林畜産業を基礎としていることを示している。しかし、1975年の構成比率は1965年の構成比率から見ると、第1次産業部門が41.5%から34.7%に後退、それに対し、工業部門、商業部門が伸びてきており、次第に当国の経済構造にも変化が生じてきていることが認められる。ただ、この数年間はその変化が停滞しているようである。

表-2 国内総生産(1972年度価格)

100万クワラニー

	1962	1965	1970	1971	1972	1973	1974	1975
農 業	12,422	14,147	15,666	16,088	17,020	18,988	21,117	21,604
牧 畜	10,408	11,347	12,274	12,209	12,380	13,098	13,884	14,440
林 業	3,118	3,524	3,674	3,790	3,926	4,126	4,552	5,023
狩猟漁業	51	87	96	65	68	84	93	118
小 計	20,000	20,106	31,711	32,152	33,395	36,295	39,645	41,186
鉱 業	51	120	84	191	212	200	229	290
工 業	3,385	10,568	13,886	14,670	15,693	16,863	18,365	17,998
建 設	1,140	1,477	2,162	2,474	2,533	2,950	3,370	4,081
生産部門計	36,577	41,270	47,844	49,487	51,833	56,308	61,609	63,555
電 力	309	342	751	910	1,073	1,348	1,374	1,676
上下水道	75	93	156	198	247	262	275	316
運輸通信	2,462	2,931	3,380	3,504	3,773	4,165	4,750	5,405
商 業	13,662	15,541	20,323	21,584	22,272	24,143	26,274	27,443
政府部門	2,131	2,620	4,517	4,557	4,596	4,243	4,100	4,785
住宅部門	2,211	2,093	2,434	2,514	2,599	2,753	2,900	3,108
その他	5,985	6,959	8,887	9,407	10,505	11,278	11,869	12,552
サービス部門計	26,836	30,578	40,447	42,673	45,066	48,191	51,542	55,285
国内総生産	63,413	71,849	88,291	92,160	96,899	104,499	113,151	118,841

表-3 国内総生産部門別構成比(1972年価格)

	1962	1965	1970	1971	1972	1973	1974	1975
農 業	19.6	19.7	17.7	17.5	17.5	18.2	18.7	18.2
牧 畜	16.4	15.8	13.9	13.2	12.8	12.5	12.3	12.2
林 業	4.9	4.9	4.2	4.1	4.1	3.9	4.0	4.2
狩猟漁業	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
小 計	41.0	40.5	35.9	34.9	34.5	34.7	35.1	34.7
鉱 業	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
工 業	14.8	14.8	15.7	15.9	16.2	16.2	16.2	15.1
建 設	1.8	2.0	2.4	2.7	2.6	2.8	3.0	3.4
生産部門計	57.7	57.5	54.2	53.7	53.5	53.9	54.5	53.4
電 力	0.5	0.5	0.8	1.0	1.1	1.3	1.2	1.4
上下水道	0.1	0.1	0.2	0.2	0.3	0.3	0.2	0.3
運輸通信	3.9	4.1	3.8	3.8	3.9	3.9	4.2	4.5
商 業	21.5	21.6	23.0	23.4	23.0	23.1	23.2	23.1
政府部門	3.4	3.6	5.1	5.0	4.7	4.1	3.6	4.0
住宅部門	3.5	2.9	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6
その他	0.4	0.7	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
サービス部門	42.3	42.5	45.8	46.3	46.5	46.1	45.5	46.6
国内総生産	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表-4 国内総生産(市場価格)

100万クワラニー

	1962	1965	1970	1971	1972	1973	1974	1975
農 業	9732	11761	13326	15388	17020	25842	32865	37747
牧 畜	5369	6145	2283	8832	12380	16443	19576	23811
林 業	1676	2239	3330	3519	3926	4912	6740	8546
狩猟漁業	39	72	84	60	68	95	124	170
小 計	16817	20517	24024	27799	33395	47292	59305	70234
建設	47	104	83	185	212	206	298	316
建設	3152	8666	12498	13731	15693	20033	30338	28719
建設	1015	1358	2076	2434	2533	3425	5343	7113
生産部門	25030	30645	38689	44139	51833	70957	95285	107751
電 力	253	300	703	875	1073	1631	1730	2305
上・下水道	53	68	136	182	247	295	346	434
運輸通信	1576	2404	2950	3209	3773	4335	6138	7610
商 業	10410	12744	18291	20203	22272	28890	39853	43514
政府部門	1624	2148	3943	4174	4596	4786	5285	6414
住宅部門	1641	1878	2281	2339	2599	2839	4118	5016
その他	4561	5706	7936	8615	10505	11705	15264	17424
サービス部門	20418	25247	36241	39597	45066	54480	72733	82818
国内総生産	45448	55892	74921	83736	96899	125437	168018	190439

表-5 国内生産前年比(1972年度価格)

	62/63	65/66	70/71	71/72	72/73	73/74	74/75
農 業	0.4	14.62	2.7	5.8	11.6	11.2	2.3
牧 畜	-4.3	2.4	-0.5	1.4	5.8	6.0	4.0
林 業	-3.2	-4.0	8.1	8.6	5.1	10.3	10.4
狩猟漁業	-2.0	3.0	-3.25	5.3	2.0	1.0	2.9
小 計	2.4	-2.6	1.4	3.9	8.7	9.2	3.9
鉱 業	8.0	7.1	12.69	11.1	-5.8	1.49	2.65
工 業	3.1	2.4	5.6	7.0	7.4	8.9	-2.0
建 設	17.8	19.9	14.4	2.4	16.4	14.2	21.1
生産部門計	3.1	-0.2	3.4	4.7	8.6	9.4	3.2
電 力	7.0	4.1	21.1	18.0	25.6	1.9	22.0
上・下水道	6.6	-9.0	27.0	24.6	5.9	5.0	14.8
運輸通信	3.4	0.5	3.7	7.7	10.4	14.0	13.4
商 業	0.8	1.7	6.2	3.2	8.4	8.8	4.4
政府部門	13.5	9.9	0.9	0.9	-2.7	-3.4	16.7
住宅部門	2.9	2.9	3.3	3.4	5.9	5.3	7.2
そ の 他	0.2	4.4	5.9	11.7	7.4	5.2	5.7
サービス計	2.2	3.0	5.5	4.5	0.9	6.9	7.3
国内総生産	2.7	1.1	4.4	5.1	7.8	8.3	5.0

2 1975年の各部門

(1) 農 業

1975年の農業生産は、天候不順がマイナス要因となり、前年比4%の伸びにとどまり、当国の期待値を下回った。また、主要作物の生産も平均的なものではなく、かなり増減差が大きくあらわれた。

主要農産物の1975年生産を見ると、棉花が10万tonで前年比18%、米が5万tonで43%、大豆が21万tonで11%、トウモロコシが34万tonで20%と各々大巾な増産となり、また、落花生、インゲン豆、タマネギ等もおおむね増となった。しかし一方タバコが25万tonで24%、小麦が2万tonで33%、サトウキビが120万tonで25%と大巾な減産となった。なお、酒粟は前年と同生産となった。

(2) 牧 畜

1975年は畜産業界にとって、欧州共同市場からの食肉輸入制限や、世界的経済不況による輸入総額の需要減少により非常にきびしい年となり、その生産も前年の827%と大巾に落ち込んだ。

1975年の食肉牛の屠殺頭数は498300頭で前年の577900頭の86%に落ち込み、特に輸出向けられる加工用の屠殺頭数は前年の188463頭の約60%にあたる116730頭と激減している。なお、1975年屠殺の食肉牛の23%が加工輸出用に、残りが国内消費にあてられている。

また、輸出用加工食肉牛の屠殺時平均体重は前年に比べ5%ほど軽く、価格も平均約37グラフィーで、前年に比べ約2.0グラフィーも下落した。こうした加工用食肉価格の下落により、国内消費向け食肉価格に期待するところが大きくなり、良質肉の国内消費生産を刺激した。その結果、国内消費用食肉価格は42グラフィー強となった。国内消費用に屠殺された頭数は前年比で2%の減とはなったが、重量で1%増となり、平均屠殺時体重で3%増であった。

以上のように、1975年は輸出用加工用食肉生産が減少し、国内消費食肉の多少の増加はあったものの、畜産業者の収入は全体として昨年を下回った。

(3) 林 業

林業部門の生産(クブラチオを含む)は前年より10.4%の伸びとなっている。

1975年第1四半期は前年から引き続き高値のもとに順調な出足であったが、第2四半期に

入ってから、アルゼンチンのパラグアイ産木材の輸入制限に帰因する取引中止が相次いで発生した。結局、1974年には142673tonであった製材輸出が1975年には、107093tonにしか残らなかった。木材のストック増増加も目立ってきており、1975年末の製材在庫が350~400万立方インチと推定されている。

なお、国内の木材需要は前年とほぼ同程度であった。

(4) 工業

1975年の工業生産の成長は、1974年の成長と比べると非常に落ち込みとなった。特に当国の最も重要かつ近年着実に伸びてきた食品生産が1975年にいたって減少するという結果となった。また、プラスチック、ガラス、金属などの生産も減少している。それに対し、タバコ、飲料、衣料、木材加工品、家具、一部の化学製品、非金属鉱物、貿易用品などの工業生産は増加している。

生産部門別に前年比較をすると、増加したものとしては、米食関係20%、ビール19%、炭酸飲料13%、棉織物34%、製材5%、ケブラチエキス118%、セメント49%があり、減少したものとしては、冷凍肉59%、鮮結肉35%、小麦粉28%、マテ茶2%、砂糖26%、食用油3%、蜜糖10%、棉織物23%、パルミット31%、木材油38%、ココヤシ油29%等である。

ここ数年間、1970年11月に制定された産業振興法のもとに、工業投資に対し恩恵がもたらえられ、国内市場の狭小という問題点をかかえながらも、工業施設の拡大、外資導入等、工業振興がはかられ、結果着実に伸びを示してきた。今後も同法の利活用により、工業振興の促進がはかられ、ここ数年間の成長水準に回復することは充分可能なことではあるが、そのためにはまず第一に、海外市場の再活性化が強く望まれるところである。

3 消費者物価

1975年の消費者物価指数の上昇は6.7%でラテン・アメリカ諸国の中では極めて低く抑えられた国の一つである。パラグアイ国の物価は1970年まで比較的安定したものであったが、1971年から騰貴しはじめ、年々インフレ傾向を強めてきた。特に1973年、1974年は石油価格の高騰が直接はね起り非常に高騰した。しかし1975年に入ってから、1974年の物価上昇の直接原因となった石油価格の影響が弱くなったことや、海外市場の一次産品需要の減少などにより物価上昇前年比として、大きく抑制されたといえるであろう。

表-6 物価指数の推移

年	指数(%)
1970年	-0.9
1971年	5.0
1972年	0.2
1973年	12.8
1974年	25.2
1975年	6.7

消費者物価指数の対象は88%が国内生産品であり、12%が輸入品で占められている。その物価上昇は国内生産品で平均6%、輸入品で13%、全体として6.7%になっている。

1975年の物価を品目別に見ると、肉、卵、チーズ、粉ミルク、乾燥インゲンその他、食料品の平均価格の下がったことが目立つ。それにひきかえ、野菜、果実、コーヒーが著しく高騰し、さらけ、砂糖、塩、パン、食用油、ジャガイモ等も上っている。

表-7 貨目別物価指数(%)

貨目	1974年	1975年
食料品費	24.8	4.6
住宅費	25.0	9.2
衣料費	20.8	13.0
その他	28.7	7.5
平均	25.2	6.7

ブラグアイ国の標準である家族構成5人の労働者の家庭における消費の内訳は、52%が食料費、17%が住宅費、9.5%が衣料費に、残り21.5%が教育費、冠婚葬祭費、娯楽費、交通費等に当てられている。

表-8 貨銀指数の推移

年	指数(%)
1970年	3.2
1971年	3.8
1972年	3.7
1973年	9.0
1974年	18.3
1975年	5.3

表-9 業種別貨銀指数(%)

業種	1974年	1975年
製造業	20.2	1.5
建設	26.3	0.1
電気、ガス、水道	18.6	9.2
商業	34.8	8.7
運輸、通信、倉庫	11.5	15.3
サービス	23.1	0.1
全体	18.3	5.3

4 貨 銀

1975年の貨銀指数は5.3%の上昇であったが、前年の18.3%と比べると、極めて低く、インフレ抑制に大きな効果を与えている。このよりに貨銀上昇が抑えられた原因は、1973年25%、1974年20%引上げられた最低貨銀が1975年は設置されたところにある。

パラグアイの賃金は政府の経済政策諮問委員会によって決定される最低賃金と、労使間の団体契約によって決定される。1975年に労使間契約によって賃金の上昇した業種は、運輸、倉庫、通信業の15.3%、電気、ガス、水道の8.2%、商業の8.7%、で製造業、建設関係、サービスはほぼ0に近いものであった。

5. 財政

1975年の歳入実績(投資会計を含む)は176億3110グアラニーで、前年の16億700万グアラニー増加し、歳出実績は172億8110グアラニーで前年の29億4,260グアラニー増加した。結果、1975年の黒字決済額は3億4,000万グアラニーとなったが、1974年の黒字決済額16億7,560万グアラニーと比すと著しく減少している。

この原因は、1974年には折からのインフレにより国家の税収入が急増したこと、および、納税義務に対する新処置が設けられたことが黒字要因となったが、1975年は経済成長が前年水準におよばず、インフレ現象も前年と比すと抑えられ、また海外市場の不振が重なったことにある。

1975年の黒字は、パラグアイ中央銀行の財政債務の償却にあてられた。

歳入面における所得税の占める割合は1975年の一般財政の歳入中14.6%で決して高くはないが、1972年11.1%、1973年10.7%、1974年11.5%と比べるとかなり高くなっている。歳入中最も大きなものは、消費税等の38.1%である。歳出面では、国防費20%、教育関係15%が高い比率を示している。

6. 金融

1975年の通貨流動性は増加の方向に動いた。特に貯蓄性預金が非常に大きく伸びた。増加量は61億4,300万グアラニーで、そのうち30億8,900万グアラニーが貯蓄性預金であり、30億4,400万グアラニーが通貨の流通高である。貯蓄性預金の30億8,900万グアラニーは前年の16億3,500万グアラニーと比すと著しい増加で、前年増加の90%もの伸びであった。一方支払手段は前年の増加額に達することが

表-10 通価市場の流動性の増加(百万グアラニー)

	前年		1975年末残高
	1974	1975	
通貨流通高	3,379	3,044	10,888
貯蓄性預金	1,635	3,099	15,845
計	5,014	6,143	35,733

できなかった。1975年末の総額は通貨の流通高が前年度より18%増加し198億8,800万グアラニー、貯蓄性預金が24%増加して158億4,500

万グラニーであった。また1975年末の外貨預金は実質増加を示し、総額20億1,000万グラニー、1,600万US\$であった。なお、1974年末までは410万US\$であった。

1975年の通貨発行は41億3,900 表-11 通貨発行高 (百万グラニー)

	発 行 高		1975年末残高
	1974	1975	
貨幣紙幣	1,200	1,410	9,722
銀行預金	1,495	2,356	11,323
政府預金	695	373	2,438
計	3,390	4,139	23,483
増加率	21%	22%	

1975年末の通貨発行残高は234

億3,300万グラニーで、その41%が

紙幣貨幣、48%が中銀預金、11%が政府預金という構成になっている。1975年の通貨流通高は、前述のごとく30億4,400万の増加となったが、これは政府の引当大や、外貨準備高の増加にもなりものといえよう。

このような通貨流通高の増加に対応するものとしては、貯蓄性預金、外貨預金、輸入品預託、その他特殊な預金および銀行資本、準備金などであった。

表-12 通 貨 流 通 量 (百万グラニー)

	前 年 比 増		1975年末残高
	1974	1975	
公的機関保有現金	1,062	1,347	8,900
一 覧 払 預 金	1,585	1,410	8,417
政 府 預 金	732	287	2,571
計	3,379	3,044	19,888
増 加 率	25%	18%	

1975年の銀行貸付および前貸金は45億1,500万グラニー(前年比15%の純増)となった。この内、1億1,800万グラニーが公共部門に、43億9,700万グラニーが民間に向けられたものであった。1974年の純増が10%、26億5,400万グラニーで、その内訳が民間に37億4,400万グラニー、公共部門に対しては、逆に1億1,100万の減少となっていた。

とと比較して見ると、公共部門への貸付けに非常に大きな変動があったことが認められる。公共部門の中の内訳を見ると、中央政府に対する貸付は1974年同様1975年も減少したが、その減少率はかなり低下した。

結果、1975年末の中央政府の中央銀行に対する債務残高は29億8600万クワラニーとなった。一方地方団体に対する貸付は増加の道をたどり前年比13%の3億2,100万クワラニーの増となり、1975年末残

表-13 公共部門に対するパラグアイ中央銀行の貸付および債務金 (百万クワラニー)

	前年比残高増減		1975年末残高
	1974	1975	
中央政府	-1239	-203	2986
地方団体	128	321	2807
公共部門計	-1111	118	5793

高が28億700万クワラニーにまで伸びた。なおこの残高のうち21億5,400万クワラニーが国営企業体、5億200万クワラニーが銀行以外の公的信用団体、1億5,200万クワラニーが地方福祉協会、市町村等で稼働されている自治団体の未決済残高であった。

パラグアイ中央銀行の貸付け、再割は勲業銀行に対し4億7600万クワラニー17%の増加となり、市中銀行に対しては1億9,200万クワラニーの減少となった。その結果、パラグアイ中央銀行に対する1975年末債務残高は勲業銀行が32億5,600万に増加し、市中銀行は6億4,500万クワラニーに減少した。

1975年の中央銀行認可の勲業銀行新規貸付け総額は22億6,640万クワラニーであり、その81%にあたる18億3,800万クワラニーが農業部門に残り4億2,840万クワラニーが工業部門、および牧畜奨励に貸付けられた。

更に、中央銀行は1974年に勲業銀行へ貸付けられた内の6億クワラニーにつき期限延長、公債整理を認めている。

農業部門に対する新規貸付けの内訳は

表-14 パラグアイ中央銀行よりの勲業銀行

大豆耕作向け 100,300万クワラニー

市中銀行への貸付け内訳高 (百万クワラニー)

小麦 45,000
綿 25,000
橘 13,500
となっている。

	年度内増減		1975年末残高
	1974	1975	
勲業銀行	804	476	3256
市中銀行	322	-192	645
計	1,126	284	3901

また、勸業銀行の中央銀行への償還は農業部門14億8960万グラニー、その他の部門3億100万グラニーを執行している。一方市中銀行に関しては、1975年に17億5240万グラニーの貸付け再開を認可し、20億180万グラニーの回収を執行した。結果、1975年の中央銀行から勸業銀行、市中銀行への貸付け再開は1974年と比べて大きく減少することとなった。

民間に対する銀行貸付けおよび前貸金の1975年増が43億8700万グラニーであったことは前述したが、その内、勸業銀行を通じての貸付増分は8億5400万グラニーで前年の7%増、市中銀行を通じての貸付増分は35億4300万グラニーで28%増であった。また、1975年の新規貸付額は勸業銀行で67億4700万グラニー、市中銀行で397億2000万グラニーとなり、各々前年比5%、2%の増であった。さらに民間の債務償還額の新規貸付額に対する割合は勸業銀行において1974年72%、1975年87%、市中銀行においては1974年95%、1975年91%となり勸業銀行融資の早期償還の傾向が認められる。銀行の貸付け金率は、農業、工業、輸出振興に対して最高年利10%、手数料2~3%とし、貸付期間により貸付条件に中をもたせている。商業

融資に対しては最高年利12%とし手数料を年間8%まで徴求できるとしている。
なお、特殊な金融制度として次のようなものがある。

(1) 牧畜基金

この基金は、国内の畜産振興、畜産物の輸出振興の為に設けられたもので、対象は小規模牧畜対象と大規模牧畜対象に区分され、資金は勸業銀行自己資金とBID資金により構成されている。

利用は年々増加しており、1975年は前年比の15%4億8200万グラニーの増加となっている。

(2) 住宅貯蓄貸付制度

本制度は、住宅不足の解消を目的に1973年より制定され、同年2億3100万グラニー、1974年9億2230万グラニー、1975年10億9320万グラニーの貸付けを実績、一方1974年8750万グラニー、1975年1億8760万グラニーの回収を行なっている。

表-15 民間への銀行貸付額 (百万グラニー)

	年 度 年 増		1975年末 残 高
	1974	1975	
勸業銀行	1710	854	12380
牧畜基金	382	462	3619
市中銀行	2044	3543	16432
計	4136	4895	32430

7 買 易

1975年の輸出は、1974年の1億6980万ドルから4%増加し1億7620万ドルにとどまったのに対し、輸入は1974年の1億7140万ドルから8%増加し1億8550万ドルに達し、その結果1974年の160万ドルからさらに増大して930万ドルの入超となった。

1974年は石油価格をはじめとする国際価格の高騰のため、前年比輸出34%、輸入64%と急激な増加となったが、1975年は世界的な景気後退のため輸出入とも極めて慢なものとなった。特に輸出は、伝統的輸出品である木材や食肉の輸出先国からの輸入制限策による減退や、不景気による相手国からの輸入減少によりその伸び率は大きく後退した。従って本米輸出品である木材、大豆、ペチグレイン、畜産品等が国内市場にたふつくという結果をもたらした。

表-16 買 易 収 支 (F.O.Bベース 千US\$)

年 度	輸 出		輸 入		収支差
	金 額	前年増減	金 額	前年増減	
1970	64,071	%	63,835	%	236
1971	65,204	2	70,272	10	△5,068
1972	86,188	32	69,849	△1	16,339
1973	126,927	47	104,790	50	22,137
1974	169,806	34	171,397	64	△1,591
1975	176,200	4	185,543	8	△8,343

(1) 輸 出

1975年の輸出は前述のごとくF.O.B価格で4%の増にとどまったが、量的にも6%の減少という結果となった。主な輸出品目の1975年結果は次のごとくとなった。

食 肉

1975年の食肉輸出は金額上は前年より8%減の3220万ドルとなったが、量的には1974年の18845トンから13%増加して21,308トンになった。1975年の食肉輸出内容はカンヅノ肉が量的に7.8%増加して、15,077トン、額では3.6%増して2370万ドルとなった。しかし一方冷凍肉は量で4.7%減の4,091トン、額で44%減少して570万ドルとなった。なお、輸出価格は平均カンヅノ肉で2.4%、冷凍肉で1.0%ダウンした。また食肉関係輸出品の総輸出額に占める割合は、1973年32%、1974年21%、1975年18%と年々の下降傾向を示した。

表-17 主要品別輸出 (F.O.Bベース 千US\$)

	1974	1975	変 動 額	約 率
食 肉	35,173	32,221	△2,952	△ 8
工業原料用種子及副産物	1,325	2,220	895	5
綿 織 物	1,650	2,108	3,608	22
木 材	24,698	27,865	3,167	13
メ ン ト	11,441	12,015	574	5
植 物 油	12,446	10,513	△1,933	△ 16
香 料 油	8,371	9,753	1,382	17
砂 糖	1,005	665	△3,348	△ 33
コ ー ヒ ー	3,980	8,718	4,732	119
皮 革	4,485	1,924	△2,561	△ 57
そ の 他	2,376	2,206	2,830	12
計	169,806	176,200	6,394	4

木 材

1975年の木材輸出はアルゼンチンの制裁策によって大きな影響を受け、加工製品は量として6%増の8625トン、額として6.3%増の570万ドルと伸ばしたものの木材輸出の主体とならな製材は前年の142673トンから2.5%減少して140993トン、額としても2220万ドルにとどまった。その結果木材関係全体として金額上は前年比して1.3%の伸びとなったものの、量的には2.3%減少の116718トンと大きく後退した。

工業原料用種子および副産物(大豆)

大豆および大豆油またその副産物の輸出額は前年の5%増である2020万ドルとなった。内尺を見ると、大豆種実が量的に1%伸び10195トン、額で1,750万ドルと前年の1.7%の伸びを示し、大豆粉、大豆油等の工業産品は30703トン、275万ドルとなった。なお、1975年末の在庫量は大豆種実で15,000トン工業用原料として20000トンが推定され、また、大豆ペレットの在庫も相当量あるものと推定されている。大豆ペレットの国際相場は1975年に11%ダウンしている。

1975年の大豆輸出価格の年間平均はF.O.B.ベースでトンあたり171ドル、大豆ペレットは85ドルであった。なお、大豆の国際相場は12月のO.L.F. ランダム価格でトンあたり180

ドルと1974年同時期の294ドルと比べて39%下落している。

総 量

総の輸出はここ数年、政府の栽培奨励策により飛躍的に増加しており、1975年においても量で52%伸びて26526トンに達し、額においても2010万ドルと前年比22%の増となった。総輸出額に占める割合も1972年においては4%にすぎなかったものが、1975年には12%と大豆及び輸出高と同レベルにまで達した。

豆 類

1975年の豆類相場は全く変化なく、量、額ともに21,960トンで4%、1,200万ドルで5%の増と緩慢な成長に終わった。

植 物 油

ココヤシ油、油桐油を代表とする植物油は、1975年1,060万ドル、20335トンと前年比で各々25%、26%と大巾に減少した。

香 料 油

1975年の香料油の輸出量は841トンと31%の伸びとなったが、輸出額は980万ドルと17%の伸びに停った。これはハッカ、ペチグレイン等の国際相場下落に起因するもので、ペチグレインは1974年12月のキロ当り13ドルから、1975年12月には7.2ドルへ、ハッカはキロ当り12.75ドルから9ドルに下がっている。また、1974年6月の価格はペチグレイン25.5ドル、ハッカ25ドルであった。

砂 糖

当国の1975年輸出実績の内落込みの最も激しかった品目の一つである。砂糖の輸出量は、1974年に20000トンと過去実績の最高に達し将来に希望をいだかせたが、1975年には量で20000トンを大きく下回り、13580トンと32%もの減少となり、金額的にも1,000万ドルから670万ドルと33%減少となった。

コ ー ヒ ー

1975年のコーヒー輸出はブラジルの霜害が大きく影響し、量、額ともに大きく伸びた。特に価格は暴騰しており、1974年の平均輸出価格トン当り990ドルから1975年には1470ドルにまで達している。

1975年の輸出量は、5935トンと47%、額面は870万ドルと118%の伸びとなっている。当国のコーヒーも6月の寒波を受けたが、1975年の収穫には大した被害は受けなかったが、樹そのものはかなり影響を受けているようであり、1976年収穫が深刻な問題となつて

いる。

その他

午茶の輸出が食肉の影響を受け、量で9%、額で57%の減少となった。マテ茶、油ヤシは輸出額で19%、25%と伸びたが、輸出量は55%、27%の減少となり、またセメントも額で38%、量で42%の減少となった。

これに対し、ケブラチ・油が輸出量で143%、輸出額で190%と驚異的な伸びを示し、12,663トン、250万ドルとなった。

輸出先国別に見ると、やはりアルゼンチン向けが最も多く、総額の28%をしめ、これについて西ドイツへ13%、イギリスへ10%、米国、オランダへ9%と輸出されている。また、地域別に見ると、35%がALALCへ、28%が欧州共同市場へ、23%が他の欧州諸国へ、9%が米へ向けられている。なお、対日輸出額は2%、370万ドルにしか過ぎない。

(2) 輸 入

1975年の輸入の伸びは8%にとどまったが、品目別に見るとかなり大きな変動がある。大きな伸びを示した品目としては酒類及びタバコの64%、機械類の31%、輸送機械及び同部品の21%、鉄、非金属製品の14%があり、一方では食料品の39%、農業用機械16%、繊維及び同製品13%の減少がある。輸入品目の内、燃料及び潤滑油が総輸入額の21%と最も大きな部分をしめているが、1974年の24%と比べるとしめる割合は低下しており、反面も8%の減少となっている。1975年の大きな特徴としては、機械類、輸送機械及び同部品といった資木材輸入の増加であり、両者合せて5,900万ドルとなり、総輸入額の32%をしめるまでになっている。1974年は4,660万ドルで27%であった。

国別に見ると、従来、アルゼンチンよりの輸入が常に第1位をしめていたが、1975年に入り年々増加の傾向にあったブラジルよりの輸入がついにアルゼンチンを抜き第1位になった。ブラジルよりの輸入は全体の20%にあたる3,710万ドル、アルゼンチンよりは3,330万ドルで18%となった。その他、主要な輸入先国としてはフランス（フランス領を含む）で全体の16%、アメリカ12%、イギリス9%、ドイツ8%と続き、欧州市場が大きな相手国となっている。対日輸入は全体の5%にあたる880万ドルとなっている。

表-18 主要国別輸出

(F.O.B. ベース 百万US\$)

	1970	1971	1972	1973	1974	1975
アルゼンチン	17.6	12.8	15.7	16.2	38.5	49.7
スペイン	3.7	2.4	3.2	1.27	4.5	4.6
イギリス	4.7	3.6	2.51	0.86	1.47	1.33
アメリカ	9.1	10.4	12.8	16.4	19.4	15.5
フランス	3.4	3.0	3.2	5.4	2.1	2.9
ウルグアイ	2.7	1.4	0.6	1.1	1.9	2.3
ベルギー	2.1	2.9	0.2	0.0	5.2	3.8
オランダ	5.5	5.0	6.2	10.5	15.8	15.1
西ドイツ	3.5	3.6	14.1	23.3	22.2	22.1
イタリア	0.4	1.2	0.7	1.6	2.6	0.8
スイス	0.3	0.4	1.8	6.6	15.6	13.4
ブラジル	1.1	0.8	0.7	2.9	6.1	5.7
日本	1.2	0.5	0.8	1.3	1.8	3.7
その他	9.0	12.1	14.7	24.1	14.3	13.3
計	64.1	65.2	80.2	126.9	169.8	176.2

表-19 主要品目別輸入

(F.O.B. ベース 千US\$)

	1974	1975	変動	割合
機械類	22866	36626	8760	31
輸送機械及び部品	18740	22614	3874	21
鉄・非金属及び同製品	14087	16073	1986	14
繊維及び同製品	4303	3741	△562	△13
農薬用機械	5752	4822	△930	△16
燃料及び潤滑油	41904	38443	△3461	△8
化学製品及び薬品	10133	8538	△1595	△6
食料品	14420	8808	△5612	△39
酒類及びタバコ	11234	18172	6929	62
紙及び同製品	5024	5275	251	5
雑品	12925	21431	8506	20
計	171397	185543	14146	8

表-20 主要国別輸入

(F.O.B. ベース 百万US\$)

	1970	1971	1972	1973	1974	1975
アルゼンチン	11.8	10.1	10.8	22.5	48.4	33.3
アメリカ	14.9	17.9	13.7	12.3	15.6	21.8
ウルグアイ	1.5	1.2	1.2	0.9	2.7	3.5
イギリス	5.5	6.9	5.8	7.8	10.1	16.2
オランダ	0.7	0.6	0.6	0.6	1.6	1.0
西ドイツ	9.2	8.2	10.0	11.8	14.3	14.6
ベルギー	0.4	0.4	0.5	0.3	0.4	1.8
スペイン	0.6	0.8	0.9	0.9	1.5	1.3
スウェーデン	1.5	1.3	1.0	1.8	2.7	3.1
フランス	5.2	6.1	5.2	6.6	13.0	29.1
イタリア	1.3	1.4	2.5	3.4	1.3	2.1
スイス	0.5	0.7	0.4	1.2	1.0	1.0
ブラジル	2.0	5.1	10.4	15.5	28.3	37.1
日本	4.3	3.9	3.1	4.1	5.8	8.8
その他	4.4	5.7	3.7	5.1	24.7	10.9
計	63.8	70.3	69.8	104.8	171.4	185.5

フランス額を含む

8 国際収支

1975年の国際収支は、3180万ドルの黒字となったが、1974年の3910万ドルの黒字から見ると、黒字額は低下するという結果となった。これは経常収支、特に貿易収支の赤字増加によるもので、国際景気の後退による輸出の伸び悩みと、高騰を続ける原油類、輸送機成類といった資本財を国内産業発展のため輸入せざるを得なかったという状況に因っている。経常収支の赤字額は1974年の5340万ドルから2180万ドルとなった。

ブラジルの国際収支パターンは、経常収支の赤字を外債導入による資本収支の黒字により支えるという型となっており、1975年は1974年比べてさらにその傾向が強くなってきた。1975年の資本収支は1億780万ドルの黒字となったが、その内訳は長期資本が1億1180万ドルの黒字、短期性のものが400万ドルの赤字となっている。長期性外債の導入額は1975年

6750万ドルとなり、1974年の2690万ドル、1973年の1540万ドルと比較すると急増した。この6750万ドルの内訳は、長期貸付け1540万ドル、民間投資790万ドル、Itaipu Binacional プロジェクトに供して4250万ドル、Yacyretá Binacional プロジェクトに供して260万ドルとなっている。

中央銀行の外貨準備高は1974年の3030万ドル増には及ばなかったが、2900万ドル伸びて1975年末には1億1240万ドルに達した。外貨準備高の内訳としては83%が米ドルとなっている。

表-21. 国際収支 (百万 US\$)

	1974	1975
1. 貿易収支	-25.3	-38.8
輸出	172.9	176.2
輸入	-198.2	-215.0
2. 貿易外収支及び贈与	-28.1	-38.0
3. 資本収支	94.7	107.8
銀行外部	83.5	97.3
銀行内部	11.2	10.5
4. 誤差脱漏	-2.2	-4.2
5. 総合収支	30.1	31.8

表-22. 外貨準備高 (千ドル)

	期間変動		1975年末
	1974	1975	
金及びドル	31,225	45,621	93,226
ALALO多角決済債	8,762	-5,973	-23
その他の通貨	-8,762	-10,911	5,309
IMP. Gold TR.	-	8	5,761
S R D	-	230	8,151
総計	30,309	28,975	112,424

9 為替管理

パナマの為替制度は二重相場制度を適用している。

銀行における公定相場での1975年取引は、2億7430万ドルの買い、2億4830万ドルの売りとなり“買い”は1974年の8%増、“売り”は15%増となった。買いの57%にあたる1億5650万ドルが輸出によるものであり、売りの78%にあたる1億9480万ドルが輸入支払によるものである。

公定レートは、1960年から1975年の間1ドルあたり“買い”12360グアラニー、“売り”126グアラニーを維持してきたが、中央銀行は1975年6月売りの最大手数料を2%と制定、“売り”“買い”とも126グアラニーに定めた。

自由変動相場制をとる外貨交換所での取引は、1975年1億2510万ドルを買い、1億2410万ドルを売った。1974年と比べると“買い”で7%、“売り”で24%と伸びている。この外貨交換所は1973年の中央銀行による設立許可以来年々増えている。交換レートは外貨取引所で自由に決められるが、1974年1ドル当り139グアラニーであったものが1975年には140グアラニーとなった。

表-23 銀行による為替取引 (千 US\$)

	取 引 額		変 動 %
	1974年	1975年	
収 入			
輸 出 ¹⁾	183,076	156,492	△ 16
そ の 他	66,222	117,853	78
計	253,298	274,345	8
支 出			
輸 入	165,311	194,864	18
そ の 他	50,527	53,425	6
計	215,838	248,289	15

1) 前払いも含む

10 外国借款

1975年パラグアイ国が契約した新規の外国借款契約額は1億4,140万ドル、うち公共部門が80%の1億1,260万ドル、民間部門が20%の2,880万ドルとなった。目的別に見ると48%が基盤整備関係に、51%が経済復興関係に、1%が社会厚生関係に向けられている。

資金調達先別に見ると、全体の29%にあたる4,160万ドルがB.I.D.からのものであり、この内の3,360万ドルが国内電気網整備拡張事業を目的とするANDEに対するものであり、残り800万ドルが中小工業及び農業に対する融資資金を目的とした勧業銀行に対するものであった。また、全体の11%にあたる1,500万ドルがIDAより、13%にあたる1,780万ドルが南アメリカ政府よりとなっている。さらにANTEL00は全体の7%にあたる1,130万ドルの貸付けを受けた。この中には、マイクロムーブ、人工衛星通信設備建設のため日本の経済協力基金からの660万ドルが含まれている。ブラジル政府は、ブラジル銀行から全体の7%にあたる1,000万ドルをブラジル製品輸入を目的として貸付けを勧業銀行に対して行っており、米国銀行協も全体の2%にあたる360万ドルを勧業銀行に対して貸付けている。

なお、全体の14%にあたる1,950万ドルは輸入の支払延期によるものである。

1975年に利用された、中期長期の外国借款は8,370万ドルに達し、1974年の2,020万ドルから1,350万ドルの伸びとなった。その中を見ると、その67%にあたる5,620万ドルが公共部門において、33%2,750万ドルが民間部門において利用され、1974年と比べると公共部門での利用が1,400万ドルの増となったのに対し、民間部門の利用がわずかにあるが、53万ドルの減少という結果となった。内容を見ると基盤整備関係に対して全体の46%にあたる3,870万ドル、経済復興関係に対してもやはり46%にあたる3,820万ドル、残り8%が社会厚生関係に利用されている。基盤整備関係の3,870万ドルは前年の44%の増であるが、その中は1,960万ドルがA. Carayilの水力発電事業、送電システムの拡大等に利用され、空港建設、道路整備等の運輸・通信関係には1,080万ドル、下水施設、水道施設の整備等には180万ドル、国際空港建設には840万ドルが利用された。

経済復興関係へ利用された3,820万ドルの内訳を見ると農業振興に経済発展振興奨励を含め1,800万ドル、畜産基金に240万ドル、中小企業に1,700万ドル、住宅資金融資に50万ドルが利用されている。

社会厚生関係の主体は、空港周辺、国際道路周辺の低所得者層のための682戸の住宅建設への利用であり、その額は400万ドルとなっている。

外国借款の償却及び利息支払いは1974年の2,850万ドルから25%増の3,560万ドルとな

った。その結果、1975年末の外国借款の契約総額は6億6300万に昇り、その内4億8400万ドルが利用され、2億2900万ドルが未決済となっている。また同時期における外国借款の1債総額は未決済分も含めて3億3200万ドルになっている。

表-24 外国借款の利用状況

(千 US\$)

	1974		1975	
	金額	構成比例	金額	構成比例
基礎整備	26797	38	38671	46
運輸通信関係	12052		10816	
水力発電関係	10963		17598	
上下水道関係	3782		1803	
国際空港整備			8454	
経済振興	40184	57	38178	46
中小企業関係	12719		17063	
経済振興貸付	2899		4341	
低所得農牧畜関係	21298		13861	
畜産基金	3010		2111	
住宅建設関係	117		502	
建設機械関係	211			
社会厚生事業	3247	5	6841	8
拓殖関係	307		752	
住宅関係	1185		4699	
教育関係	1669		2139	
厚生関係	393		3	
総計	70228	100	83690	100

表-25 外国借款の償却及び利息支払い

(千 US\$)

	1974	1975	増加率(%)
公共部門	21,596	25,239	17
償却	13,553	15,412	
利息	8,043	8,827	
民間部門	6,930	10,399	50
償却	6,053	8,611	
利息	877	1,788	
総計	28,526	35,638	25
償却	19,606	24,023	
利息	8,920	11,615	

表-26 外国借款の現状

(百万 US\$)

	実 績		1975年末 累 計
	1974	1975	
契約額	959	1,414	6681
利用額	702	837	4336
未決済額	-	-	2205
償却額	216	240	1016
支払利息	69	116	585
純借款額	-	-	3320

